

# 気象に関する参考資料

- 南岸低気圧による大雪 -

2020年12月  
福島地方気象台

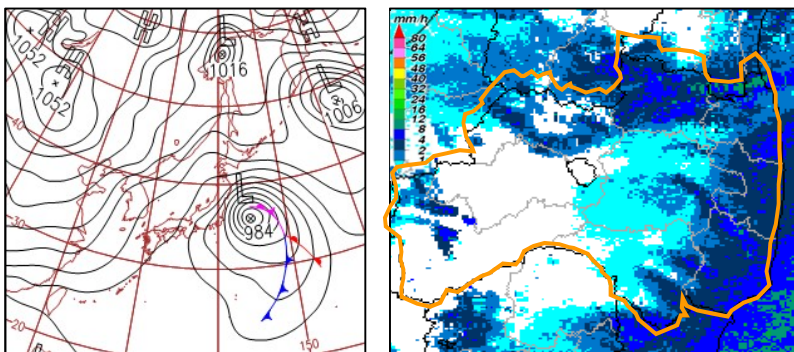
冬型の気圧配置がゆるむ2月末から3月は、本州南岸を通る低気圧のため浜通りや中通りを中心に湿った雪が降ります。特に発達した低気圧が南岸からゆっくり福島県沖を北上する場合には、着雪による送電線の切断や、湿った大雪によるビニールハウスの倒壊、大規模な交通障害などの大きな災害になることがあります。

## 南岸低気圧による大雪

### 【平成26年2月8日～9日の大雪】

低気圧が2月8日から9日にかけて、日本の南岸を発達しながら三陸沖に進みました。

このため、2月8日～2月9日までの48時間降雪量は、白河51センチ、福島44センチ、茂庭で42センチ、若松54センチ、天栄村湯本で50センチとなり、ビニールハウスの倒壊や、除雪作業中に転倒して怪我人が出るなどの被害が発生しました。

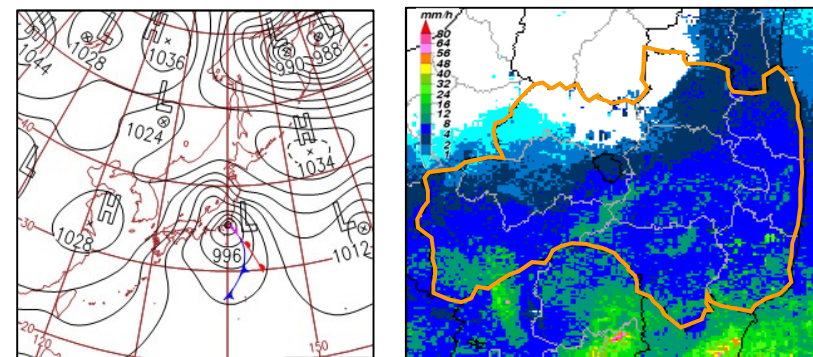


2月9日9時の地上天気図及び8日15時のレーダーエコー降水強度

### 【平成26年2月14日～15日の大雪】

低気圧が2月14日から16日にかけて、日本の南岸を発達しながら三陸沖に進みました。

このため、白河では降雪の深さ日合計（15日50センチ）と月最深積雪（15日76センチ）が観測史上最大となり、福島でも降雪の深さ日合計（15日37センチ）は2月として第1位となるなど、中通りを中心に記録的な大雪となりました。一般道や、高速道路で通行止めが相次ぎ、ビニールハウスの倒壊や非住家の一部損壊、除雪作業中に転倒して、けが人が出るなどの被害が発生しました。



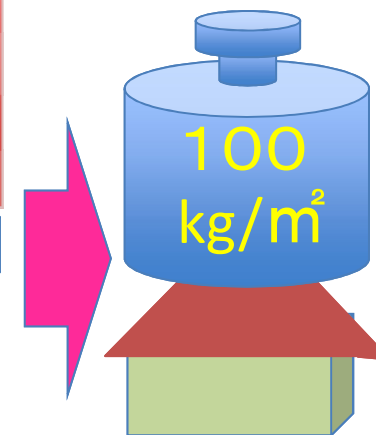
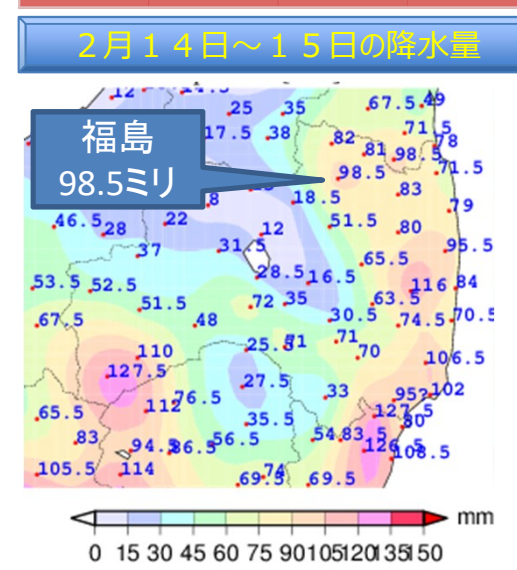
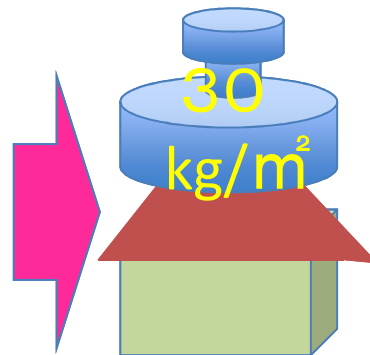
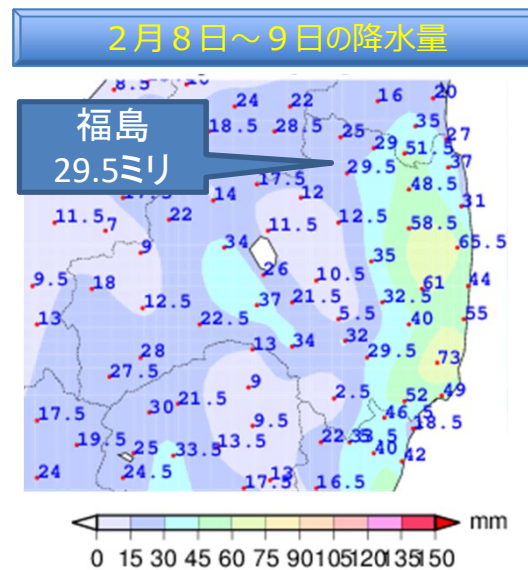
2月15日9時の地上天気図及びレーダーエコー降水強度

## 南岸低気圧による降水量と降雪量の関係（平成26年2月の大雪）

福島市の降水量と降雪量を比較してみると、2月8日から9日は、44センチの降雪量に対して降水量が29.5ミリで、住家にかかる雪の重さは1㎡あたり30kgに相当します。一方、2月14日から15日は、同じ44センチの降雪量に対して降水量が98.5ミリとなり、住家にかかる雪の重さは1㎡あたり100kgに相当します。水分を多く含んだ重く湿った雪になるほど、住家の損壊やビニールハウスの倒壊などの被害は大きくなります。

2月8日～9日の降雪量			
地点名	降雪量	地点名	降雪量
茂庭	42cm	只見	37cm
福島	44cm	南郷	27cm
西会津	39cm	湯本	50cm
猪苗代	39cm	田島	36cm
金山	29cm	白河	51cm
若松	54cm	桧枝岐	50cm

2月14日～15日の降雪量			
地点名	降雪量	地点名	降雪量
茂庭	59cm	只見	58cm
福島	44cm	南郷	45cm
西会津	12cm	湯本	65cm
猪苗代	16cm	田島	65cm
金山	28cm	白河	61cm
若松	12cm	桧枝岐	87cm

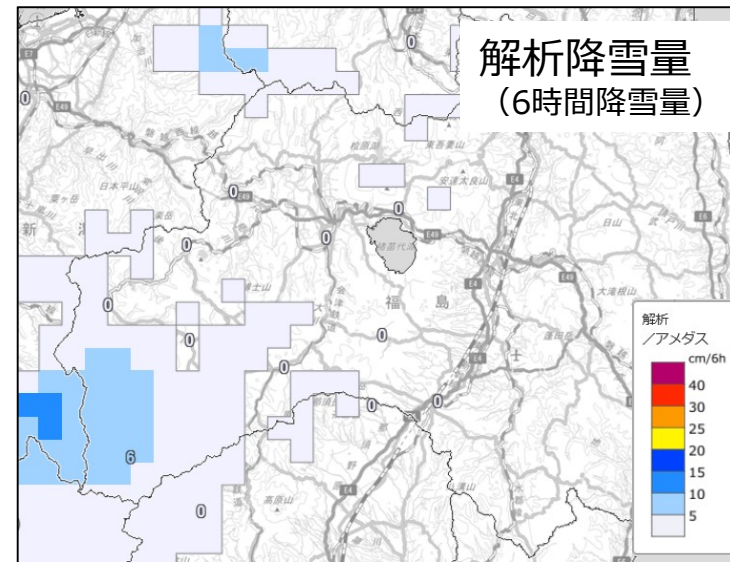
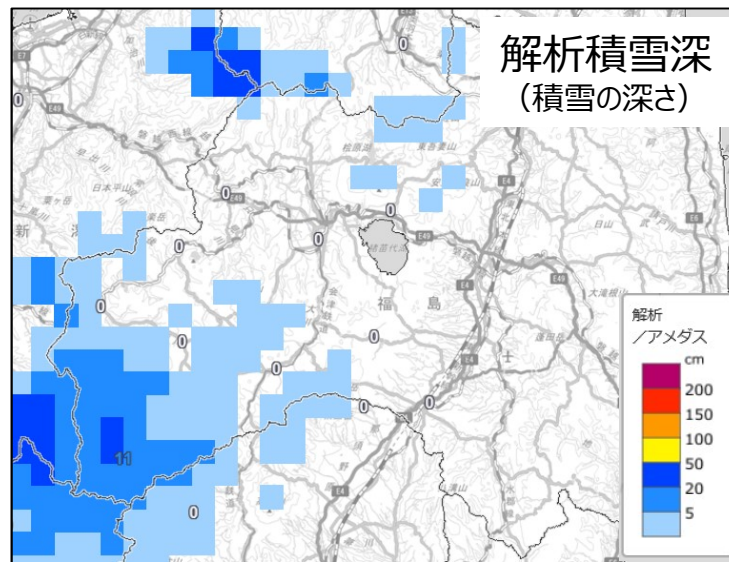


## 現在の雪（解析積雪深及び解析降雪量）の活用

南岸低気圧による降水については、所在地から離れた地域が雨か雪かを判断するのが難しい場合があります。このような場合には、「現在の雪（解析積雪深・解析降雪量）」を利用することで、雪の観測が行なわれていない地域を含めて降雪・積雪の分布を把握することが可能となります。

「現在の雪」は、アメダスの積雪計による観測値に加えて、1時間毎に積雪の深さと降雪量を推定する解析積雪深・解析降雪量を提供しており、道路・鉄道等の地図情報と重ね合わせて確認することができますので、除雪作業の参考や防災対応の検討に活用いただけます。

令和2年11月28日21時の解析積雪深・解析降雪量



### 【利用上の留意点】

- ・解析積雪深・解析降雪量は約5 km四方の平均的な値であるため、積雪の深さや降雪量のおおまかな分布状況を把握するために利用してください。
- ・約5 km四方の平均的な解析積雪深・解析降雪量の値は、個別地点における観測値と必ずしも一致しません。
- ・風が強い時は雪が風に流されるため、また、地上の気温が約1～3℃の時は雨雪の判別が難しいため、解析積雪深・解析降雪量の精度が低下する可能性があります。

「現在の雪」は、気象庁ホームページでご覧になれます。

<https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/snow/jp/#zoom:4/lat:34.052659/lon:135.000000/colordepth:normal/elements:snowd> 3